

道博協ニュース 第123号 (2018年10月31日発行)

第57回 北海道博物館大会を終えて

大会会場に、小気味よく響き渡る張り扇の音。よもや博物館関係者が、声を張り上げる大会になるうとは、誰も想像しなかつただろう。

平成30年7月20日から21日にかけて、渡島管内七飯町で開催された北海道博物館大会は、これまでとは、やや趣向が異なつただろうが、皆様のおかげで、無事に終えることが出来た。

大会のテーマは、「話芸に学ぶ、伝える技術—講談—」。観覧者との直接対話にもなる「解説」において、いかに興味を惹きつける話で資料の魅力を伝えるか。それには解説者の「話術」の向上が求められていると考え、講師には、日本講談協会から講釈師の宝井琴柑氏をお招きし、「講談」がどういった伝統芸能なのかを学び、そして、修練を重ねた「話芸」から、少しでも技術を盗むことが出来れば。というねらいであった。

結果、実践という形で、参加者の皆さんには、にわか講釈師を演じて頂くことに相成った訳である。一朝一夕で噺家の方たちがもつ話芸が身につくとは考えていないが、博物館関係者以外からアドバイスをもらうことで、広い視野から自分たちを見直す機会になったのではないかと考える。

基調講演の後は、実例の報告として、子供向けの解説の一例を今金町教育委員会の宮本雅通氏に、観光客向けの解説の一例を松前町教育委員会の前田正憲氏に、通常業務で行っている解説の様子をあらかじめビデオ撮影して頂き、会場で映像を見ながら、宝井氏にアドバイスをもらうという形で進めた。

解説において、伝えたいことは多々あるが、あえて観覧者の動きから、興味の対象を探り、柔軟に対応すること。言葉だけでなく、観覧者にも動きをあたえることで、飽きさせないなど、わかってはいるけど、実践できているかを再確認する時間にもなった。実例報告はあくまで一例なので、それぞれの館園では、状況は異なるだろう。むしろ求められていることが多様化する中、創意工夫するための参考になったのでは



博物館大会の様子

と思う。難しい役割を引き受けてくださった宮本氏と前田氏には、本当に感謝している。

2日目となるエクスカージョンでは、函館をめぐるコースと、七飯周辺をめぐるコースに分け、施設見学を行った。道南開催ということもあり、2日目も道南ブロック博物館施設等連絡協議会の面々が、施設案内から展示解説にいたるまで、最大限の協力をしてくれた。函館コースは、五稜郭タワー・箱館奉行所・函館美術館の見学。七飯周辺コースでは七飯町歴史館で開催中だったテーマ展「標本の博物誌」を観覧、バックヤードの見学をした後、北斗市郷土資料館の見学、最後に「道の駅なないろ・ななえ」に立ち寄った。



エクスカージョンの様子

今回の大会は「講談」から学ぶという風変わった内容だったが、伝えたかったのは、最近では学芸分野以外のスキルが、学芸員に求められているということ、その要望に応えるため、異業種からも学ぶことが可能で、探求する姿勢が肝要だということである。博物館に興味をも

ち、何度も足を運んでくれる人を増やすことが、結果的に必要とされる博物館づくりになると思う。

何が正しい方法なのかはわからないが、我々は、ひたすらに「日々是精進」なのである。

(七飯町歴史館 山田 央)

道央地区博物館等連絡協議会 NEWS

学芸職員の研修についての思案

新人学芸職員の研修をどうするかという課題があります。先般道博協で実施された職員の研修に関するアンケートの結果でも新人に限らず共同での研修機会の必要性があるという回答が多数であったと聞いています。

さる9月5日、6日に倶知安で行われた平成30年度ミュージアムマネジメント研修:テーマ「持続可能なミュージアムの連携」に当館の2年目の職員と一緒に参加した際(1日目のみ)、前日の台風の影響で開始時間が遅くなり肝心のワークショップの時間が取れず消化不良の状態であったため、帰りの車中でどうすれば研修会を最大限の効果の得られるものにできるかというミニワークショップになりました。出てきたアイデアとしては、以下のようなものがありました。

①北海道の博物館の学芸職員としての基礎知識研修は、北海道博物館のテーマ1「北海道120万年物語」の展示の解説を聞き、その中で、自分の館園がどの部分と関連しているのかを整理してみるというような研修がよい。さらに欲を言えば、北海道博物館のテーマ2~5

の展示の中に、もっと詳しく知りたい人向けにどの博物館に行けばこんなことがわかるというような展示から道内の各博物館にリンクが張られているような展示を作る研修会などがあつたら楽しそう。

- ②各館園及び職員の扱っている専門分野や関連分野とその年代、時代、得意分野などが色分けされているようなリスト(分野や時代からの逆引きも可能なもの)、及び各館園の高額備品や最新機器、標本、文化財、図書、資料のリスト、のようなものが整備されていると、連携もしやすいし研修希望も出しやすいし研修の具体的なテーマも決めやすい。
- ③事前に研修会などの参加者名簿(専門分野、得意分野が記載されているもの)が手に入ると、この人と繋がろうとか具体的に目標を定めることができる。
- ④せっかく様々な専門分野や経験を持つ学芸員が集まる機会なので、研修先の館の「お悩み解決研修会」のような形でワークショップなどをして2日間で知恵を出し合いながら、具体的な解決策まで決めてしまうというような研修を開催してみる。

以上、参考までにまとめてみました。

(黒松内町ブナセンター 齋藤 均)

道南ブロック博物館施設等連絡協議会 NEWS

ピリカ旧石器文化館が

リニューアルオープン

2018年4月、檜山管内今金町のピリカ旧石器文化館が新装オープンしました。本施設は国指定史跡ピリカ遺跡のガイダンス施設として遺跡

に隣接して2003年に開館。史跡区域内には発掘現場を保護した展示施設があり、また野外には氷期の植生を再現するなど、遺跡のビジターセンターとしての機能を有しています。

今回の展示改修は開館以来初となるもので、



リニューアルした展示室

解説パネルは近年の研究成果を盛り込む一方、イラストや写真を豊富に用いてわかりやすさを全面に打ち出すものに変えました。少なくとも解説文を補うため、タッチパネルの検索ボックスを3台設置しました。映像ホールはこれまでの解説映像に加えてタッチパネルによる情報検索の機能を加え、写真ギャラリーやこれまで利用者から寄せられた主な質問についてQ&A式で学べるものとししました。ハンズオンは2種を

整備し、一つは国指定重要文化財を3Dプリンタで模造し接合パズルとしたものと、地下資源豊富な町の特徴を生かし、地質図をデフォルメした引き出しボックスです。このほか3ヵ国語対応の音声ガイド（日・英・中）、自撮りできる記念写真撮影ボックスを整備しました。

開館以来課題となっているのが入館料（大人200円・小人100円）で、入場者の3割程度が入口で有料とわかると入館しない傾向があり、普及の障壁となっていました。博物館法の理念から入館料を設けるべきでないことは言を俟ちませんが、今年度は記念事業として無料開放を試行しています。現在リニューアルとの相乗効果で例年の約2倍の利用者数で推移中です。今後アンケート内容を分析し、来年度以降の判断材料とします。

※当館は12月1日から3月31日まで冬季休館します。

（今金町教育委員会事務局 宮本雅通）

日胆地区博物館等連絡協議会 NEWS

猿留山道の国史跡指定と資料館

えりも町の日高山脈南端に位置する猿留（さるる）山道は、平成30年2月様似町の様似山道と共に国史跡に指定されました。共に江戸時代寛政11年（1799）に、蝦夷地をロシアの南下政策から守るために不可欠な道として開削されたものです。

松前、函館～北海道太平洋沿岸～根室海峡までの海岸付近に道を整備し、有事情報・物資・兵などを海路だけでなく、安定して流通できるよう、江戸幕府が蝦夷地を直轄した年に造られました。

様似山道は以前から整備されていましたが、猿留山道は知る人も少なく、国史跡に指定されるまでに、えりも町内外の人たちのゆるぎない努力がありました。

えりも町郷土資料館は平成4年（1992）に開館、博物館資料館活動の三本柱、調査研究・収集保存保護・普及教育を実施してきました。

地域住民と共に取り組んだ植物調査、石碑石仏調査等の際に、参加者から「猿留山道があるはずだ！」との声があがり、住民有志と資料館職員が共に探し始めたのが平成9年でした。



猿留山道

山道を確認した後は、日高の山道シンポジウム、猿留山道復元ボランティア事業、歩く会等を開催。町内小学生の参加や、町内外のボランティアが集い猿留山道のササ刈りを行い、見通しのきく山道となったことが、平成30年の国史跡指定につながったのです。ボランティア作業で汗を流したみなさんの苦勞と熱意が報われました。

史跡指定後は、えりも町が管理団体となり、責任を持って猿留山道を保存管理します。この猿留山道を次の世代に伝えていくためには、これまで

同様、地域住民のみならず、多くの方々が山道を歩き、歴史的文化的価値を共有し、その素晴ら

しさを広めていくことが重要で、当資料館の使命もますます大きくなります。

(えりも町郷土資料館 中岡利泰)

道北地区博物館等連絡協議会 NEWS

稚内市樺太記念館が

オープンしました！

平成30年5月25日、稚内市中央地区に所在する稚内副港市場内に稚内市樺太記念館がオープンしました。

広さは268㎡ほどで、館内には稚内市が収集した樺太に関する資料に加え、平成29年度、全国樺太連盟から寄贈された約2,000点におよぶ樺太に関する資料が展示・収蔵されています。

当館では明治時代に日本領となった南樺太の歴史を中心として、当時樺太の北緯50度にあった日露国境標石に関する資料や、稚内と樺太の大泊をむすんだ稚泊航路(ちはくこうろ)、樺太における豊富な木材や炭鉱等、樺太の産業などについて展示しています。

またサハリンなど国境地域をフィールドとして活躍されている、稚内在住の写真家である斉藤マサヨシさんが近年撮影したサハリンに残る神社の鳥居や製紙工場跡など、日本統治時代の面影が残る写真も常設で展示しています。



展示室の様子1



展示室の様子2

さらに館内では、道内に在住する樺太からの引揚者や関係者からのインタビューをもとに、当時の樺太からの引揚の状況や、樺太や稚内とのつながりを伝える映像展示を鑑賞できるスペース、そして樺太・北海道の歴史に関する書籍のコーナーがあり、樺太に関する資料の閲覧も可能となっています。

当館は、4月から10月までは無休で、11月から3月は月曜日が休館日となっています。開館時間は10:00から17:00(入館は16:40)までで、入館料は無料です。

現在はサハリン州コルサコフ(旧大泊)・ネベリスク(旧本斗)・ユジノサハリンスク(旧豊原)と友好都市を提携し、サハリン航路(稚内・コルサコフ)が就航されるなど、サハリンと深いつながりをもつ「国境のまち稚内」で、戦前の樺太を感じてみてください。みなさまのご来館をお待ちしています！

(稚内市教育委員会 斉藤譲一)

網走管内博物館連絡協議会 NEWS

平成30年度網走管内博物館連絡協議会研修会開催

7月28日、北網圏北見文化センターにおいて、管内博物館職員を対象として研修会を開催しました。これは美術企画展『没後35年 中村善策展』の関連事業として実施した講演会であり、札幌芸術の森美術館の前館長・奥岡茂雄氏を講師にお迎えしました。奥岡氏は道立近代美術館の設立準備段階から携わり、学芸員として北海道の美術を間近で見つめてこられた方です。「中村善策 人と芸術」と題して画家・中村善策の作品の特徴などについてご講演いただきました。

中村善策は、生まれ育った小樽をはじめ、“第二の故郷”・信州、旅先の町など、自然豊かで愛着ある風景を好んで描きました。彼の風景画は写実的でありながらも簡潔かつ装飾的な表現で、ものの実在感を実によく描き出しています。中村の作品の写実性とは、写真のようなかたちの正確さではありません。対象が放つ生命感や存在感をいきいきと描きとめていることが、彼の作品の特徴であるとの指摘がなされました。

中村のその特徴を支えるのは、「現場主義」と呼ばれた制作姿勢です。彼は作品をアトリエで仕上げるのではなく、制作を全て現場で行いました。五感を連携させて描くこの方法では、彼



研修会の様子

自身の体感がキャンバスに反映されるため、制作されたときの空気や彼の息づかいまで感じられるようです。

本講演会の冒頭、東日本大震災後の様子にふれ、「災害時でも絵本は常に求められていた」というエピソードが語られました。大地震とそれによる停電を経験した今、その言葉がとても印象的に思い出されます。中村の作品に満ちる生命の気配が、癒しと喜びと元気、すなわち「感動」を私たちにもたらすのだと奥岡氏は論じています。厳しい状況下におかれたときこそ、芸術の力を引き出して「感動」を伝えることが博物館員と学芸員の役割なのだと思ふことができました。

(北網圏北見文化センター 松浦 葵)

道東3管内博物館施設等連絡協議会 NEWS

道東3管内ブロックの取り組み

道東3管内博物館施設等連絡協議会では、5月23日(水)に釧路市立博物館で平成30年度の役員会・総会を開催しました。十勝・釧路・根室各地から12館園が集まり、平成30年度の事業や予算等を確認し、各館の近況を報告しました。

道東3管内ブロックの最近の動きとしては、移転のため休館していた標茶町郷土館が7月に標茶町博物館「ニタイ・ト」として、これまで



平成30年度総会の様子(釧路市立博物館)

の釧路集治監の隣にある元のオーベルジュ「ピルカ・トウロ」の建物を活用して開館しました。また、道博協ニュース第122号の道東3管内ブロック NEWS でも紹介した「簡易軌道（殖民軌道）」を北海道遺産に選定登録しようという動きが進んでいるほか、11月中旬には釧路市立博物館常設展示室に簡易軌道コーナーが新設される予定です。

道東3管内ブロックの取り組みとしては、交流推進会議を10月25日（木）・26日（金）に浦幌町立博物館で開催しました。1日目は公開シンポジウム「道東過疎地における文化財保護の現状と課題」、2日目は浦幌町から釧路市音別町にかけて巡検を行いました。また、10月28日（日）に北海道博物館で開催された「北のみゆぜふえす」に、釧路市立博物館と浦幌町立博物館の合同で「ヤチボウズ」がテーマのブース



「北のみゆぜふえす」3管内ブロックの様子
(北海道博物館)

を出展しました。

(釧路市立博物館 加藤ゆき恵)

日本動物園水族館協会北海道ブロック NEWS

千歳水族館リニューアル3周年

2015年7月25日、「サケのふるさと千歳水族館」としてリニューアルオープンした当館も、お陰様で3周年を迎えました。ここ数年続くサケ資源の低迷や毎年襲い来る大型の台風、また先日の北海道胆振東部地震など多くのマイナス要因があったにもかかわらず、リニューアル後の累計入館者数は本年10月末に100万人に達しました。

この間、水族館として特に力を入れてきたのは、他の関係機関と連携したコラボイベントでした。リニューアルオープン3周年記念では、道の駅サーモンパーク千歳との本格的謎解きイベント「ブラックサーモンを倒せ！」を7月から10月半ばまで開催しました。難易度はかなり高めに設定されていましたが、期間中はご家族連れから謎解きマニアの方まで、当初予想の倍以上となる、2,500人を超える方にご参加いただきました。

また、近隣の回転寿司「北々亭・千歳店」との共催で、食材としてのサケの魅力に寿司ネタから迫る「そのサーモンどこからきたの？」と題した体験教室も開催。寿司職人さんによるキングサーモンの解体実演や、サケの種類別の食べ比べなどを実施しました。企画展示としては北海道大学との「環境DNAでイトウを探せ！」や外来カエルとアメリカザリガニをテーマとした「ケロケロちょ



「そのサーモンどこからきたの？」
寿司職人による解体実演中

つきん展」、また北海道区水産研究所と共催でのサイエンスカフェ「サケ科魚類の釣りの科学」など、他の関係機関のご協力により、水族館単独での開催とはひと味違ったイベントを実施し、来館された多くの方に楽しんでいただくことができました。

来年は前身となる「千歳サケのふるさと館」のオープンから、25周年となる節目の年。多くの皆様のお力添えをいただき、さらなる魅力ある水族館作りを目指したいと考えています。

(サケのふるさと千歳水族館 菊池基弘)

学芸職員部会 NEWS

学芸職員部会総会・研修会を開催
しました

平成30年9月28日(金)、29日(土)に美幌町民会館「びほーる」と美幌博物館を会場として第42回北海道博物館協会学芸職員部会研修会および総会を開催し、70人が参加した。

本研修会は国立科学博物館による文部科学省委託事業「博物館ネットワークによる未来へのレガシー継承・発信事業」と連携して開催し、道外より2名の専門家を講師として招き、座学に併せて実習をおこなうこととした。そのため、通例2日目に開催していたエクスカージョンを取りやめ、実習の日程にあてた。

28日午後からの研修会(座学)は、山階鳥類研究所の岩見恭子氏による「剥製の取り扱い：主に鳥類標本を例として」および東京文化財研究所の佐藤嘉則氏による「博物館収蔵資料の生物被害と文化財 IPM (総合的有害生物管理)」を実施した。

続いての総会では平成23年度より開始した、北海道博物館協会学芸職員部会・調査研究助成が応募者減少により終了することが決定した。会場からは減少に至った学芸員の研究環境の変



研修会の様子

化をアンケートなどで明らかにし、記録すべきとの声があった。また、国立アイヌ民族博物館設立準備室の宮地鼓氏は、平成26年に実施した「国立のアイヌ文化博物館(仮称)への意見・要望などについてのアンケート」調査結果と回答を、北海道博物館の栗原憲一氏と様似町郷土館の高橋美鈴氏は平成30年台風21号および北海道胆振東部地震による文化施設の被災状況調査について報告した。

29日午前には研修会(実習)を美幌博物館で開催した。岩見氏の「剥製の修復と復元」、佐藤氏の「文化財害虫の同定と殺虫実習」を、別室に分けて同時に実施した。終了後、一室に集まって研修のまとめを行い、玄関で集合写真を撮影して解散した。

(斜里町立知床博物館 内田暁友)

北海道青少年科学館連絡協議会 NEWS

平成30年度北海道青少年科学館連
絡協議会総会を開催

道内の科学館が集まる北海道青少年科学館連絡協議会の総会では、各館の情報交換の他に札幌市内のさまざまな施設の視察を行っています。

今年視察したのは、リニューアルして間もない札幌市下水道科学館です。

札幌市下水道科学館は、下水処理施設に併設された施設で下水処理の工程を展示で学ぶだけでなく、事前に申し込み処理施設を見学することもできる人気スポットです。



視察の様子

今回のリニューアルによって最新のデジタル技術を使った展示物や、プロジェクターによる視覚的な演出が導入され、より体験的に学ぶこ

とができるようになりました。

森館長の案内で、下水処理施設で実際の処理工程を見学した後、展示室を見てみると子ども達の興味関心を高める展示物がたくさん。例えば、下水管の汚れを取るメンテナンス作業はピンポン玉を高圧洗浄の水に見立てて的に当てるゲームで体験することができる展示物になっていました。

皆さまもご存じのとおり、科学館の展示物は一般的な博物館と異なり、すでにある「もの」を展示するのではなく、科学原理や科学技術をわかりやすく表現した「つくりもの」が多いことが特徴です。それも自分で動かしたり触ったりしながら直感的に学べる体験型のものが人気です。

各館、それぞれ工夫を凝らして独自に展示物を制作するので、同じ科学原理でも施設によってパネルであったり、スイッチやハンドルで動かすものがあったり映像であったり...見せ方は千差万別です。さまざまな科学館で展示方法を比較して見るのも科学館見学の見どころかもしれません。

今回の視察では、実際の下水処理の仕組み・工程とそれを模した展示物を一緒に見ることができたので「なるほど。この仕組みはこうやって見せると面白くなるのか」と、新しい展示物のアイデアをもらった視察になりました。

(札幌市青少年科学館 木野 翠)

北海道美術館学芸員研究協議会 NEWS

第26回北海道美術館学芸員

研究協議会

北海道美術館学芸員研究協議会では、本年3月1日と2日の両日、北海道立近代美術館を会場に第26回研究協議会を開催しました。各日の参加者はそれぞれ、54、49名でした。

1日目は、江戸伝承浮世絵手摺木版画摺師の三田村努氏をお招きして、浮世絵についての講話と摺りの実演をしていただきました。浮世絵版画は、絵師・彫師・摺師という三者の緊密な連携によって生まれる芸術であり、それぞれが欠くことのできない重要な役割を担っています。伝統的な摺師の技を間近で見る機会ほとんどなく、会員にとって、今後浮世絵を展示したり解説したりするための貴重な体験になりました。

続いて、「美術館の展示に磨きをかけるには」というテーマで、札幌芸術の森美術館の岩崎直人氏が「歌川国芳展」における事例を、また北海道教育庁文化財・博物館課の久米淳之氏が「安田侃展」における事例をそれぞれ報告しました。

2日目は「美術館学芸員、拝借の作法」というテーマで、神田日勝記念美術館の川岸真由子



三田村努氏による摺の実演

氏が「借用時の作品点検について」、北海道立旭川美術館の土岐美由紀氏が「作品借用の基本－梱包・輸送・保険」、北海道博物館の三浦泰之氏が「私の資料借用経験－北海道博物館の事例から」、北海道立近代美術館の佐藤幸宏氏が「ゴッホ展、実現にいたるまで」と題して事例報告を行いました。

いずれも、学芸員がこれまでに実際に体験した事例に基づくレポートであり、ふだんの美術館活動にただちに生かすことのできる具体的な実践的な内容でした。今後も個別の経験を広く共有するこのような機会を通して、会員の資質向上に取り組んでいきたいと考えています。

(北海道美術館学芸員研究協議会 苫名 真)

イベント情報

会員館園の主な企画展と普及行事等 平成30年10月～平成31年3月

詳細は各館園にお問い合わせください

石狩

札幌芸術の森美術館(011-591-0090)

期間	タイトル
10/6～11/25	特別展「札幌美術展 五十嵐威暢の世界」
10/13 14:00～	「札幌美術展 五十嵐威暢の世界」関連事業 アーティスト・トーク
11/3 13:00～	「札幌美術展 五十嵐威暢の世界」関連事業 ワークショップ：あそびから始めよう—500種類の紙
11/4 13:00～	「札幌美術展 五十嵐威暢の世界」関連事業 ワークショップ：あそびから始めよう—カッティングシート
11/17 14:00～	「札幌美術展 五十嵐威暢の世界」関連事業 対談：五十嵐威暢×原研哉

サッポロビール博物館(011-748-1876)

期間	タイトル
8/19～2019/3/31	参加企画「北海道はゴールデンカムイを応援しています」スタンプラリー ※お問い合わせは北海道観光振興機構へ
9/14	共催事業「さっぽろのビール誕生の歴史を学ぼう」(東区民事) ※申込みは東区民センターへ
12月中旬	共催事業「探検新聞」 ※11月頃よりイトーヨーカドーARIO店内で募集告知予定

北海道博物館(011-898-0456)

期間	タイトル
9/21～11/25	企画テーマ展「りんご農家の道具」
10/6	ちゃれんが子どもクラブ「やってみよう、ステンシル！」
10/7	ミュージアムカレッジ「囚人が逃げた！—明治期の集治監関係の文書から」
10/13, 11/10, 12/8	アイヌ語講座「はじめてからのアイヌ語講座」(全3回)
10/20	自然観察会「落ち葉でPON！」
10/21, 11/18, 12/16	古文書講座「ゆとり古文書講座(レベル3)」(全3回)
10/21, 11/18, 12/16	古文書講座「はじめての古文書講座(レベル1)」(全3回)
11/3	ミュージアムコンサート「アイヌ音楽ライブ」
11/3	講演会「近世初期における日本人の地理認識の転換」
11/4	ミュージアムカレッジ「博物館の産業資料を読む」
11/25	ちゃれんがワークショップ「稲わらで縄をつくって、長なわとびに挑戦！」
12/8～2019/1/20	国立科学博物館北海道巡回展「生命のれきし—君につながるものがたり—」
12/22	ちゃれんがワークショップ「博物館で新年祈願！？日本の画材で絵馬づくり」
2019/1/12	ちゃれんが子どもクラブ「アイヌ語であそぼう」
2019/1/14, 2/11	特別イベント「博物館のバックヤードを見てみよう」
2019/1/20, 2/17, 3/17	古文書講座「脱ゆとり古文書講座(レベル4)」(全3回)
2019/1/20, 2/17, 3/17	古文書講座「スパルタ古文書講座(レベル2)」(全3回)
2019/1/26	ちゃれんが子どもクラブ「貝の化石で標本をつくろう！」

2019/2/8～4/7	企画テーマ展「アイヌ民族の文化財を未来へつなぐー博物館のはたす役割ー」
2019/2/9, 10	ちゃれんがワークショップ「羊毛を染める・紡ぐ」
2019/2/16	ちゃれんが子どもクラブ「雪のなかで宝さがし」
2019/2/23	自然観察会「ユキウサギを追跡しよう！」

北海道立文学館(011-511-7655)

期間	タイトル
9/22～11/18	特別展「極の誘ひ 詩人吉田一穂展～あゝ麗はしい距離、」
10/6, 11/3, 12/9, 12/16, 12/23, 2019/1/13, 2/9, 3/2	わくわくこどもランド
10/11, 11/7, 12/13, 2019/2/14, 3/14	朗読会「月例朗読会『北の響 名作を声にのせて』」
10/21	文芸対談「吉田一穂をめぐって」
10/28	歌会・句会「北海道文学館公開歌会・句会」
11/2	朗読会「古典の日記念朗読会」
11/18	映画鑑賞「映像作品鑑賞のつどい『花の恋人たち』」
11/22～2019/1/13	常設展「アーカイブ『北海道ゆかりの文学者』2018年の主な受賞とトピックス」
12/1～2019/1/20	企画展「ファミリー文学館『大本靖の版画でたどる北海道四季の風景』」
12/15, 2019/1/19	演奏会「音楽のしらべとともに」
2019/1/29～3/17	常設展「アーカイブ『北の手仕事あれこれⅡ～北海道と民藝運動～』」
2019/2/2～3/24	特別展「北海道の俳句～どこから来て、どこへ行くのか～」
2019/2/2	文芸講演会「人と俳句」

北海道大学総合博物館(011-706-3607)

期間	タイトル
8/3～10/28	企画展「視ることを通して」
各月第1土曜日 (予定)	セミナー「バイオミメティクス市民セミナー」
10月(予定)	生体展示「トガリネズミ展(仮称)」
10/13, 11/10, 12/8, 2019/1/12, 2/9, 3/9	セミナー「土曜市民セミナー」
2019/3/2, 3/3	発表会「卒論ポスター発表会」
未定	企画展「フロラヤポニカ展(仮称)」
未定	企画展「書の展示(仮称)」
未定	企画展「エゾリス写真展(仮称)」

北広島市エコミュージアムセンター 知新の駅(011-373-0188)

期間	タイトル
10/13～10/21	普及行事「2018 旧島松駅通所ライトアップ」
10/20～2019/2/24	企画展(北海道150周年記念事業)「北広島のお米から北海道のお米へ」

小原道城書道美術館(011-261-7888)

期間	タイトル
12/5～2019/3/31	企画展「書家青沼秀鳳の偉業展」
12月	ギャラリートーク(講師未定)
2019/1月, 2月, 3月	ギャラリートーク(講師未定)

札幌市青少年科学館(011-892-5001)

期間	タイトル
10/6	スペシャルサイエンスデー
10/12～10/13	プラネタリウム夜間特別投影 「VR ドームムービーセレクション&プラネタリウムライブ」
10/20～10/21	環境科学展
2019/1/5～1/20	冬の特別展
毎日	サイエンスショー
毎週日曜	日曜実験室

後志

西村計雄記念美術館(0135-71-2525)

期間	タイトル
9/29～2019/2/17	展覧会「開館 19 周年記念展『西村計雄 光の世界』」
10/13～12/2	公募展「しょうかいしたいな！わたしのだいすき」
10/27	イベント「ハロウィン&開館記念イベント」(コンサート等)
11/17	講座・イベント「トライアート『こびとづくりに挑戦!』&カフェルール」
12/4	無料開放「西村計雄命日 無料開放」
2019/1/4	講座「お正月だヨ！おやかでてづくりたこあげ大会」
2019/2/9～3/10	公募展「第 15 回箱絵展」
2019/2/22～7/7	展覧会「春から夏の展覧会『Playful—あそび心—』」
2019/2/22～7/7	展覧会「おやかで楽しむ展覧会『お顔拝見!』」

岩内町郷土館(0135-62-8020)

期間	タイトル
10/3～11/25	企画展「第 4 回企画展『松浦武四郎と岩内地方 パート 2』」
12/1～2019/3/31	冬季休館

一般財団法人荒井記念美術館(0135-63-1111)

期間	タイトル
8/22～11/11	西村計雄常設展Ⅱ期「フランス紀行」
9/12～11/11	ピカソ版画常設展Ⅲ期「七色の画風」
11/12 ～2019/4月中旬	冬季休館(予定)

渡島

市立函館博物館(0138-23-5480)

期間	タイトル
9/29～11/4	常設展「新収蔵資料・アイヌ絵展」
10/7, 10/14, 10/21	講座「体験！日本画教室」(全 3 回)
10/20	講座「青函連絡船終航 30 年『思い出の青函連絡船』」
11/13～2019/3/31	常設展「アイヌ絵・収蔵資料展」
11/17	講座「SP レコードを聴いてみよう！」

北海道立函館美術館(0138-56-6311)

期間	タイトル
10/5～11/25	特別展「歌川広重 二つの東海道五拾三次 江戸っ子たちの旅ログ!？」
10/5～2019/2/3	ミュージアム・コレクション「たべもの×アート=おいしい関係」
10/6, 11/17, 11/24	講座「ギャラリー・ツアー」
10/13	鑑賞会「美術映画会『世界の名画 モネ・光と色彩の冒険』」
10/14	講座「スイーツ&トーク『スイーツで楽しむ東海道』」
10/21	コンサート「ミュージアム・コンサート『箏のしらべ』」
10/27	ワークショップ「ハコビ・マジカル・ワークショップ『貝あわせを作って遊ぼう!』」
11/1	講座「ランチ&トーク『ランチで楽しむ東海道』」
11/3	ワークショップ 「松前高校書道部 書道ワークショップ『旅への思いを書にしたためよう!』」
11/10	鑑賞会「美術映画会『世界の名画 ゴッホ・青く揺らめく炎』」
12/1～2019/2/3	特別展「ケータイ絵文字のほっこりワールド NTTDOCOMO の初期の絵文字から同時開催 ハコビ・コレクションの『文字と記号』」
2019/2/9～4/17	特別展「生誕110年 岩船修三展 水辺のものがたり」
2019/2/9～4/17	ミュージアム・コレクション 「東洋の美 こころ、悠々と、あそぶ。/鷗亭先生、ヨーロッパへ行く。」

八雲町郷土資料館・木彫り熊資料館(0137-63-3131)

期間	タイトル
9/15～11/25	特別展「徳川さんと八雲のかかわり～木彫り熊とユーラップアイヌ文化～」
10/13～11/11	企画展「コタン温泉遺跡出土品展」
10/20	特別展関連講演「徳川さんがみた八雲」
10/28	体験学習「少年文化財教室(アイヌ文様切り絵・木の葉メール作り)」
11/4	講座「資料よりみる歴史講座」
2019/1/12	体験学習「縄文文化体験学習(勾玉作り)」
2019/2月～3月	企画展「収蔵美術品展」

胆振**室蘭市民俗資料館(0143-59-4922)**

期間	タイトル
10/21(予定)	体験学習会「とんてん館寺子屋教室『焼き芋と木製コースターづくり』体験学習会」
11/23(予定)	体験学習会「とんてん館寺子屋教室『干支凧づくり』体験学習会」
12/9(予定)	体験学習会「とんてん館寺子屋教室『しめ縄づくり』体験学習会」
12/16(予定)	体験学習会「とんてん館寺子屋教室『石臼もちつき』体験学習会」

日高**沙流川歴史館(01457-2-4085)**

期間	タイトル
10/2～12/2	沙流川歴史館特別展「ハヨピラのいま・むかし」

平取町立二風谷アイヌ文化博物館(01457-2-2892)

期間	タイトル
10/2～12/2	第24回特別展「チフ °サンケ」

新ひだか町博物館 (0146-42-0394)

期間	タイトル
9/15～11/4	平成30年度アイヌ工芸品展「キムンカムイとアイヌー春夏秋冬ー」
10/14 15:00-16:30	アイヌ工芸品展関連事業 ミュージアムコンサート フルートとギターによる夫婦ユニット「ホラネロ」
10/20 15:00-16:00	アイヌ工芸品展関連事業 講演会「マタギの世界～阿仁マタギを中心として～」 講師：丸谷仁美氏（秋田県立博物館主査兼学芸主事）
11/3 13:30-15:00	アイヌ工芸品展関連事業 ワークショップ「アイヌの弓矢作りと体験」

様似郷土館 (0146-36-3335)

期間	タイトル
10/20	トレッキング「様似山道歩こう会」
10/21	体験イベント「遺跡まつり」
10/25	講演会「冬島遺跡が語るもの」
11/3～12/2	特別展「冬島遺跡が語るもの～様似の続縄文人の暮らし～」
11/29	講演会「冬島遺跡の骨が語るもの」

上川

旭川市博物館 (0166-69-2004)

期間	タイトル
11/3～12/16	第85回企画展「アイヌの衣服と装飾品」

北海道立旭川美術館 (0166-25-2577)

期間	タイトル
9/13～11/7	展覧会「描かれた女たち」
10/6	講座「アートの中の女たち」
10/14	コンサート「マンドリンとギターのひととき」
11/14～2019/1/14	展覧会「木をめぐる美術」
11/14	ギャラリートーク「オープニング記念ギャラリートーク」
11/17	コンサート「ロビーコンサート」

土の博物館 土の館 (0167-45-3151)

期間	タイトル
10/10～10/11	農業機械展示会「2018 オータムフェア」クボタ展示会

網走

北網圏北見文化センター (0157-23-6742)

期間	タイトル
10/13～2019/1/14	ミニ企画展「常呂川のアイヌ文化」
11/23～11/25	普及行事「熟睡プラ寝たリウム」
12/8～12/9	展覧会「北見市高校生美術展」
12/22～2019/2/11	美術企画展「画家たちの自画像—高橋由一からピカソまで—」

12/22	プラネタリウム特別投影「クリスマスファンタジー」
2019/2月(予定)	国立科学博物館巡回ミュージアム「生命のれきしー君につながるものがたりー」
2019/2/9	プラネタリウム特別投影「バレンタインナイト」
2019/2/16, 2/17	普及行事「佐治晴夫博士講演会」
2019/3/9, 3/10	普及行事「道展北見移動展ワークショップ」
2019/3/16～3/24	展覧会「美術収蔵作品展」
2019/3/16～3/24	展覧会「美術館講座合同作品展」

博物館 網走監獄(0152-45-2411)

期間	タイトル
8/3～12/30	企画展「松浦武四郎の探索した道の後～北海道集治監が繋いだ道～」
10/7	体験講座「革のブックカバー作り」
11/11	体験講座「館内の植物で染物体験」
12/9	体験講座「消しゴムハンコで年賀状を作ろう」
12/27	年中行事「正月準備（鏡餅・繭玉作り）」
2019/1/7	年中行事「七草粥（七草粥の提供）」
2019/1/11	年中行事「鏡開き（刑務所で収穫した小豆のお汁粉の提供）」
2019/1/13	体験講座「銅板で表札板を作ろう」
2019/2/3	年中行事「節分（豆まきと落花生の提供）」
2019/2/10	体験講座「折り紙でひな人形を作ろう」
2019/3/3	年中行事「ひな祭り（桜餅と甘酒の提供）」
2019/3/24	体験講座「館内のカエデでメープルシロップを作ろう」

北海道立北方民族博物館(0152-45-3888)

期間	タイトル
10/13	はくぶつかんクラブ「インディアンのテントティピ型ライトづくり」
10/20	講習会「アイヌ文化講習会 刺繍」
10/27～11/25	ロビー展「平取町立二風谷アイヌ文化博物館巡回展『エカシの記憶を辿って～昭和のアイヌの暮らし～』」
10/27	講座「エカシの語りをきく」
11/17	はくぶつかんクラブ「サミの紐織り 腕時計づくり」
12/1	講座「北海道博物館紀行『三浦綾子記念文学館』」
12/8～12/19	ロビー展「ロシアのバッジコレクション」
12/8	講座「世界のサケマス事業」
12/15	はくぶつかんクラブ「革とフェルトでつくる北の動物カレンダー」
12/16	講座「北方民族の文様入門」
2019/1/5～1/20	ロビー展「オホーツクシリーズ⑩北の状景から」
2019/1/19	講座「初めての歩くスキーツアー」
2019/1/20	講座「AIで色づけされた思い出の網走オホーツク」
2018/1/26	はくぶつかんクラブ「かんじき体験」
2019/2/2～4/7	企画展「融ける大地—温暖化するシベリア・中央ヤクーチア」
2019/2/2	講座「企画展展示解説会」
2019/2/3	講座「知床半島のオホーツク文化」
2019/2/16	講習会「サハの刺繍」
2019/2/17	講座「凍土の融けゆく大地」
2019/2/23	はくぶつかんクラブ「手作りバターと簡単チーズ」
2019/3/8	講習会「とんぼ玉作り」
2019/3/9	講習会「とんぼ玉作り」

2019/3/10	講習会「ウイльта刺繍の財布作り」
2019/3/16	はくぶつかんクラブ「ロシア風ぎょうざ『ペリメニ』づくり」
2019/3/23	講座「ビーバーマンの物語」

北海道立オホーツク流水科学センター (0158-23-5400)

期間	タイトル
10/2～10/30	展覧会「全国流水絵手紙交流展」
10/6	普及行事「ビーチコーミング」
11/7～11/25	展覧会「第4回 木の香り こがし絵展」
12/2～12/22	巡回パネル展「潜水調査船がみた深海生物」
2019/1/5～2/3	展覧会「コムケ写真展～コムケ案内人が出合った自然風景～」
2019/1/12	普及事業「科学教室」
2019/1/12, 1/13	普及行事「冬のギザ祭り」
2019/3/23	普及行事「春休みイベント」

美幌博物館 (0152-72-2160)

期間	タイトル
～10/21	特別展「アイヌ文化に生きる植物」
10/10, 12	プチ工房「ハロウィンキャンドル」
10/13	講演会「最古の家畜、犬と人の関係史」
10/29	見学会「歩いて歴史を探してみよう！ぶら博物館3」
11/4～11/18	企画展「交通安全ポスター展」
11/14, 16	プチ工房「葉脈標本」
12/8～2019/1/20	企画展「おひろめコレクション展」
12/12, 14	プチ工房「タイルで作るクリスマス飾り」
2019/1/9, 11	プチ工房「野菜のハガキ」
2019/1/19	講演会「身近な芸術！？色について学ぼう」
2019/2/2～3/3	企画展「冬季作品展」
2019/2/6～3/3	ロビー展「ひなまつりとひな人形」
2019/2/13, 15	プチ工房「ストローで作るヒンメリ」
2019/3/13, 15	プチ工房「ザリガニばさみ」
2019/3/23	講演会「私たちのふるさと情報」
2019/3/23～	特別展「絵を描く心 ～岸本裕躬作品より～」

十勝**帯広百年記念館 (0155-24-5352)**

期間	タイトル
10/14	博物館講座「ぶらり帯広・文化財めぐり」
10/27～11/18	収蔵美術作品展「美しき墨の世界」
11/13～12/2	ロビー展「マッチ箱展2」
11/17	博物館講座「動物たちのスケジュール」
12/15	博物館講座「大地が語る十勝の自然史」
12/23	体験教室「まが玉作り教室」
2019/1/12～2/3	ロビー展「十勝・帯広むかしの絵はがき展2」
2019/1/18～2/3	美術展「第37回郷土美術展」
2019/1/19	博物館講座「北海道150年の光と影」

2019/2/8～3/3	ロビー展「ひな人形展」
2019/2/9～3/3	ロビー展「デッサン教室作品展」
2019/2/16	博物館講座「フィールドのなかの博物館 2」
2019/3/2～3/24	企画展「新着資料展」
2019/3/9	博物館講座「学芸員のしごと 学芸活動報告会」

北海道立帯広美術館(0155-22-6963)

期間	タイトル
9/15～12/2	特別展「神田日勝と道東の画家たち&岡沼淳一・木彫の世界」
10/6	講座「アーティスト・トーク」
10/13, 14	講座「トーク&ワーク」
11/10	ギャラリー・ツアー「キッズ・ツアー」
11/17	ワークショップ「オビビ・キッズ・アートフェスタ」
11/24	講座「特別展セミナー」
12/15～2019/2/11	特別展「幕末維新を生きた旅の巨人 松浦武四郎」
2019/1/12	ギャラリー・ツアー「キッズ・ツアー」
2019/2/9	託児事業「キッズ・ミュージアム」
2019/2/21～3/31	特別展「北海道のアール・ブリュット展 ころところの交差点」
2019/3/2	ギャラリー・ツアー「キッズ・ツアー」
2019/3/23	託児事業「キッズ・ミュージアム」

上士幌町ひがし大雪博物資料館(ひがし大雪自然館)(01564-4-2323)

期間	タイトル
10/1～10/31	展覧会「十勝石展」
10/7	観察会「親子自然観察会『十勝石観察会』」
10/13	その他「十勝三股の自然に触れる集い『植樹体験』」
10/14	観察会「自然観察会『地形地質編』」
11/3	ワークショップ「秋の自然館まつり」
2019/2/10	観察会「自然観察会『動物の足跡編 in 糠平』」
2019/2/17	観察会「自然観察会『オジロワシ・オオワシ編』」
2019/2/24	観察会「自然観察会『動物の足跡編 in 十勝三股』」
11月～2019/3月 第3日曜日	その他「バックヤードツアー」

忠類ナウマン象記念館(01558-8-2826)

期間	タイトル
10/6～11/5	特別展「忠類ナウマン象記念館開館 30周年記念事業『北海道の大氷河時代を生き た動物たち』」
11/18	普及行事「親子化石発掘体験教室」

浦幌町立博物館(015-576-2009)

期間	タイトル
9/30～10/28	企画展「フォトサークル 21 設立 20 周年記念写真展」
10/13	移動博物館「＜近代化遺産一斉公開＞浦幌の鉄道遺産を巡る」
10/25	公開講演会「＜道東三管内博物館施設等連絡協議会公開シンポジウム＞ 道東過疎地における文化財保護の現状と課題」
11/10	博物館講座「浦幌ヒグマフォーラム 2018」
12/15	博物館講座「古文書から知る十勝の歴史」

12/19～2019/1/7	帯広百年記念館移動展「とちかち むかしの絵はがき展」
2019/1/23～2/6	企画展「孔版画年賀状展」
2019/3/2～4/21	企画展「上厚内駅回顧展」

釧路

釧路市立博物館(0154-41-5809)

期間	タイトル
10/6～11/4	企画展「写真展『シマエナガさんの12か月』」
10/6, 11/3, 12/1	観察会・標本作成「ハーバリウム霧多布」(霧多布湿原センター)
10/8	体験講座「カラー拓本体験」
10/14	講演会「シマエナガ写真展講演会」
10/21, 11/18	観察会「春採湖畔探鳥会」
11/3	体験講座「黒曜石ナイフを使ってみよう」
11/10～2019/1/20	企画展「イピシシツのある生活～アイヌとイラクサとのかかわり～」
12/22	体験講座「おそなえもちをつくろう」
2019/1/5, 6	体験講座「まが玉をつくろう」
2019/1/26～4/7	企画展「私の博物館『写真展・私の一枚(仮)』」
2019/2/16	観察会「冬のいきもの観察会」
2019/2/24, 3/3, 3/10, 3/17	講演会「学芸員トーク」
2019/3月 (日程未定)	体験講座「化石クリーニング教室」
日程未定	講演会「友の会講演会」

北海道立釧路芸術館(0154-23-2381)

期間	タイトル
9/7～11/7	(共催) 展覧会 開館20周年記念 「森のささやきが聞こえますか 倉本聰の仕事と点描画展」
9/15～10/8	(共催) 展覧会「〈我が町のお宝〉展—別海町から」
10/13, 11/3	(主催) 倉本聰の仕事と点描画展 関連事業「ギャラリーツアー」
10/27	(主催) 倉本聰の仕事と点描画展 関連事業 「ギャラリートーク『木と森の美術史散歩』」
11/4	(主催) ミュージウムコンサート2018
11/16～2019/1/16	(主催) 展覧会 開館20周年記念「芸術館コレクション1998-2018」
11/16～2019/1/16	(主催) 展覧会「ドキンとするような絵を描いてみたい…川瀬敏夫 作品展」
11/24	(主催) アートシネマ館「ハートストーン」
12/15	(主催) アートシネマ館「そして父になる」
12/26～2019/1/16	(主催) 冬のキッズアトリエ
2019/1/12	(主催) アートシネマ館「怪物はささやく」
2019/1/25～3/10	(主催) 展覧会 「荒井記念美術館所蔵 ピカソ版画展—初期から晩年まで60年の軌跡」
2019/2/14, 2/28, 3/7	(主催) ミュージウムセミナー (※テーマ別の3講座)
2019/2/23	(主催) アートシネマ館「続・深夜食堂」
2019/2月(予定)	(主催) 大人の家庭科&お気軽アート教室 (※テーマ別の3講座)

釧路市こども遊学館(0154-32-0122)

期間	タイトル
10/6～10/8	企画展「遊びんピック」
10/20, 11/17	普及事業「天体観測会『星空キャラバン』」
11/3	企画展「サイエンス屋台村」
12/1	企画展「クリスマスツリー点灯式」
12/15, 16	ワークショップ「クリスマススペシャル」
2019/1/4～1/17	企画展「冬休みイベント」
2019/1/13	企画展「ジオ・フェスティバル in Kushiro」
2019/2/16, 2/17	企画展「とり+かえっこ」
2019/2/23, 2/24	ワークショップ「ひなまつりスペシャル」
2019/3/23～4/4	企画展「春休みイベント」

事務局からのお知らせ

■平成30年台風21号および北海道胆振東部地震による加盟館園の被災状況について

この度の平成30年台風21号および北海道胆振東部地震の発生により、お亡くなりになられた方々、ご遺族の皆様に対し、深くお悔やみを申し上げますとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

北海道博物館協会では、この度の台風および地震による文化施設の被害状況を把握するため、2018年9月11日(火)より、主に協会加盟館園の被害状況を調査致しました。そして被災現況リストをホームページ上で公開しています (<http://www.hkma.jp/information/1191>)。

The image shows a screenshot of a detailed spreadsheet titled '被災現況リスト' (Disaster Status List). The table has multiple columns, including museum names, addresses, and various indicators of damage status. The data is organized into several sections, likely corresponding to different regions or types of museums.

被災現況リスト (<http://www.hkma.jp/information/1191>)

なお、10月2日時点において、加盟館園115件、非加盟館園21件の情報が寄せられ、①施設に何らかの被害が生じた施設：33件、②資料に何らかの被害が生じた施設：20件、③その内、施設・資料ともに被害が生じた施設：14件、であることがわかりました。

今後は、どこに、どのような支援が必要かを把握し、救援いただける関係機関等へのつなぎ役を果たしてまいりたいと考えております。加盟館園ならびに学芸職員のみなさまには、今後ともご理解とご協力をお願い致します。

■会費納入のお願い

当協会の活動は会員の皆様の負担金(会費)で運営されています。年会費は、団体会員15,000円、賛助会員20,000円、個人会員3,000円です。以下の口座までお願いいたします(振込手数料はご負担くださいますようお願い致します)。

【銀行口座：北洋銀行厚別中央支店 (普) 0287000 北海道博物館協会会長 石森秀三】

【郵便振込口座：02770-2-29419 北海道博物館協会】

■北海道博物館協会ホームページ <http://www.hkma.jp/>

■学芸職員部会ホームページ「集まれ！北海道の学芸員」 <http://www.hk-curators.jp/>

道博協ニュース 第123号

発行日 2018年10月31日

発行者 北海道博物館協会

北海道博物館協会事務局

〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2 北海道博物館内

電話：011-898-0456

メールアドレス：dohakukyo.jimukyoku@gmail.com